

2023年ヘルスケア学会

2023年10月15日

シャントトラブル対応フロー図の作成 ～業務円滑化を目標としたTQM活動～

洛和会東寺南病院 TQM委員会

○発表者 : 小島 敬史

■共同研究者 : 織田 聖章・田中 久美子・山田 みずほ
大森 清孝・蛭子 苗・曾根 友枝
奥村 隆・仮屋 浩太・橋本 千晶・岸 敬子
(順不同敬称略)

本日の内容

背景

- あれ？先生がいなくなったけど・・・
- 誰にいったらいいかわからないから誰かが・・・

課題

- 透析を軸とする病院でシャント管理が雑・・・
- 急遽対応マニュアル策定されたが連絡連携がとれない・・・
- 部署間の連絡の不備などで不和が・・・

方法

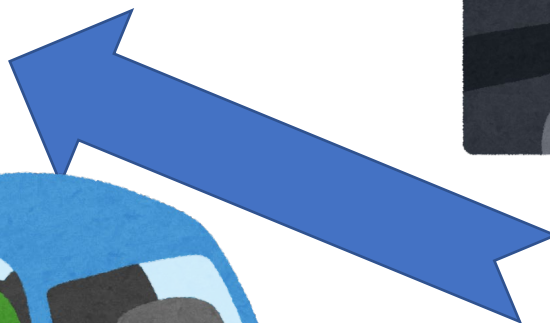
- 対応をフロー図にして誰もが同じ動きがとれるようにしよう
- 担当者を立てて情報を集約・精査し、医師との連携を図ろう

結果

- フロー図を元に行動し、各部署の対応が統一された
- トラブル発見時のスタッフの不安を解消することができた
- スタッフ間の不和が解消された

背景

2023年4月より、東寺南病院でのシャント手術が音羽記念病院に集約された。



背景

従来、入院患者、外来通院患者問わず、シャント不全や治療の相談・診察は
当院でシャント治療を行う医師が昼夜を問わず一貫して対応してくださっていた。



背景

体制が変わった後、東寺南病院内でのシャントについての相談や治療の窓口、あるいはその連絡経路が定まっておらず、無秩序にシャントの情報が管理されていた。



→早急な対応の検討が求められており、多職種連携が容易であるTQM委員会に課題として提起された。

背景

TQM委員会にて課題提起され、対応検討している間にも日々シャントトラブルや患者様からのシャントについての相談が発生しており、急遽、透析室にて「シャントトラブル(疑い)発生時の対応フロー」が作成され、運用を開始した。



シャントトラブル発生

(狭窄？閉塞？感染？静脈高血圧？スチール症候群？瘤化？)
※ 平岩院長に報告し、必要に応じシャントエコーを実施。

相談

透析室スタッフより京都腎臓病センター長: 廣川院長へ相談可
廣川院長にて治療が必要か判断(廣川院長が電子カルテ記載)
※ リーダーが電子カルテ参照後、患者に治療の意向・希望日等ないか
確認し、東寺南病院の地域連携課に報告。
(→ 記念病院の地域連携課と東寺南病院の地域連携課で治療の調整)

必要

<透析室リーダー>
・入院患者の場合、病棟に連絡する。
・平岩院長 or 外来非常勤医師に
患者・家族への手術等についての
説明を依頼する。
・平岩院長 or 外来非常勤医師に
診療情報提供書の作成を依頼する。
・透析条件票を作成する。

不必要

経過観察し異常があれば検査・相談実施

調整先の病院にて治療実施

課題

シャントトラブル発生

(狭窄? 閉塞? 感染? 静脈高血圧? スチール症候群? 瘤化?)
※ 平岩院長に報告し、必要に応じシャントエコーを実施。

相談

必要の基準は?

見つけた人?

カルテ常に監視は無理!!

相談しなくても良い?

透析室スタッフより京都腎臓病センター長: 廣川院長へ相談可
廣川院長にて治療が必要か判断(廣川院長が電子カルテ記載)
※リーダーが電子カルテ参照後、患者に治療の意向・希望日等ないか
確認し、東寺南病院の地域連携課に報告。
(→ 記念病院の地域連携課と東寺南病院の地域連携課で治療の調整)

記念連携課は腎臓病センターから既に状況把握しており、当院連携課が後手後手になり混乱する

必要

不必要

<透析室リーダー>

- ・入院患者の場合、病棟に連絡する。
- ・平岩院長 or 外来非常勤医師に患者・家族への手術等についての説明を依頼する。
- ・平岩院長 or 外来非常勤医師に診療情報提供書の作成を依頼する。
- ・透析条件票を作成する。

経過観察し異常があれば検査・相談実施

誰が?

話がかなり進んでから当院Drが知ることとなる

調整先の病院にて治療実施

その後は・・・?



フロー図を
もっとフロー図らしくしたいッ！

誰が？どこに？何を？
を分かりやすくしたいッ！

シャントに精通した担当スタッフを配置し、日常の疑問や疑わしい場合のシャントチェック、およびエコー結果からの総評を行う。

情報を集約し、内容を精査吟味し、各部署、腎臓病センターとの橋渡しを行ってもらう。

方法

シャントトラブル(疑い)発生時フローの文言や意図を元に

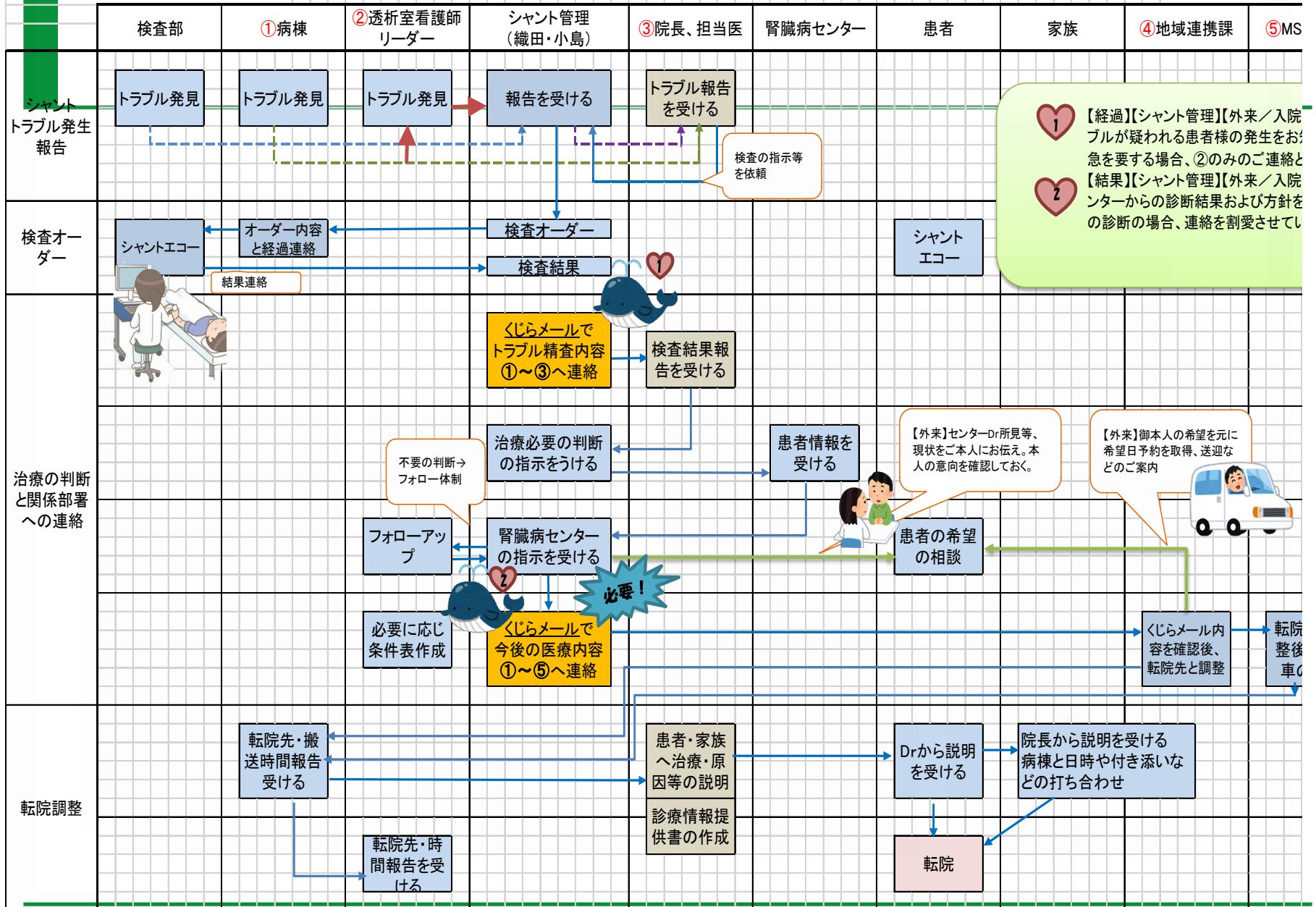
フロー図をフロー図らしく！

誰が、どこに、何を を分かりやすく！

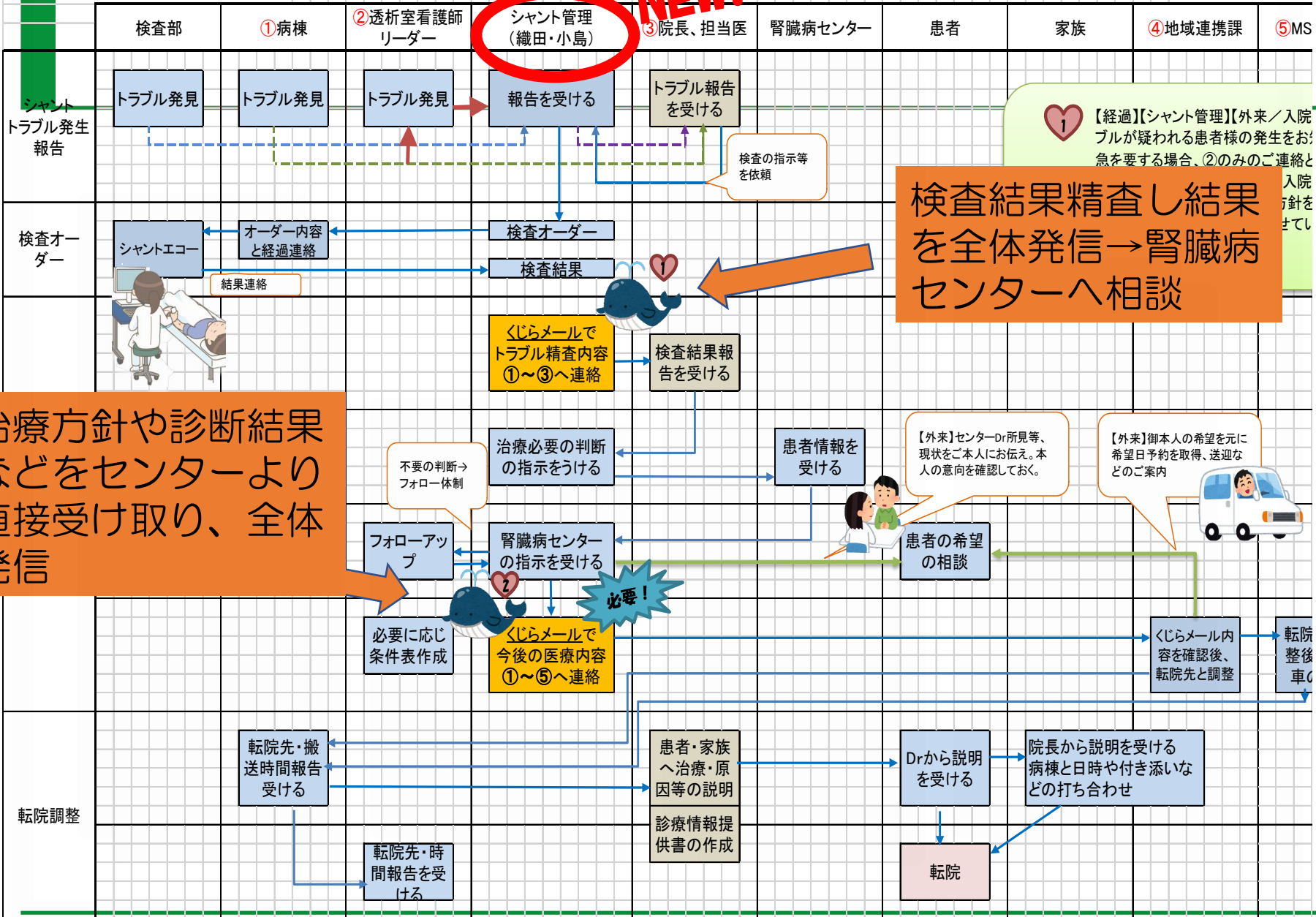
作り替える

シャントに精通した担当スタッフを配置し、日常の疑問や疑わしい場合のシャントチェック、およびエコー結果からの総評を行う。

情報を集約し、内容を精査吟味し、各部署、腎臓病センターとの橋渡しを行う。



NEW!



1 【経過】【シャント管理】【外来/入院
トラブルが疑われる患者様の発生をお
急を要する場合、②のみのご連絡と
入院方針を
せてし

検査結果精査し結果
を全体発信→腎臓病
センターへ相談

治療方針や診断結果
などをセンターより
直接受け取り、全体
発信

【外来】センターDr所見等、
現状をご本人にお伝え。本
人の意向を確認しておく。

【外来】御本人の希望を元に
希望日予約を取得、送迎な
どのご案内

必要!

○ 2021/06/25 スクリーニングシャントエコー
2022/04/20 "
2023/05/19 "
2023/07/31 "
右前腕内シャント

2021年→2022年→2023年
上腕動脈FV:616ml/min
RI:0.57

豊富なデータと所見
直近の透析経過や前回結果との比較
患者様の訴え、希望
穿刺状況や難易度
過去の治療経過

○ 1988/06 右前腕遠位部内シャント造設術
2015/02/11 右上肢内シャント修復術：右前腕近位部橈骨静脈-上腕尺側皮
静脈バイパス術 SEAL7mm (音羽記念病院)
2017/08/22 右前腕内シャント修復術 (音羽記念病院)
2017/08/22 右前腕内シャント修復術 (音羽記念病院)

A 肘部エコー
右上肢内シャント
吻合部
途絶している為、流量に大きな変化はないか

深部流入のみであり、シャント全体拍動化しており、むしろ多少流量低下
体に都合は悪くないと思われる。

治療方針としては狭窄部のPTAもしくは
と、流量増加し、更に肘部への流量増

年齢・状態考慮しても人工血管バイパス

ご本人様にここ数年のシャントの推移をご
取すると、「なにもしたくない 死んでも良
られない様子。

→閉塞
P 血流確保が困難になった場合や閉塞時にはバイパス術等を行う方針
→8/1音羽記念病院へ転院、手術の方針となる。明日の当院での血液

2023/08/14

Large shuntのpt
前腕部のNative部分が大きく発達・蛇行しており穿刺も同部位
上腕尺側へのバイパスGraftの入り口部分3.8mm
バイパス出口よりやや中枢に硬化
CAS部分に1.7mm

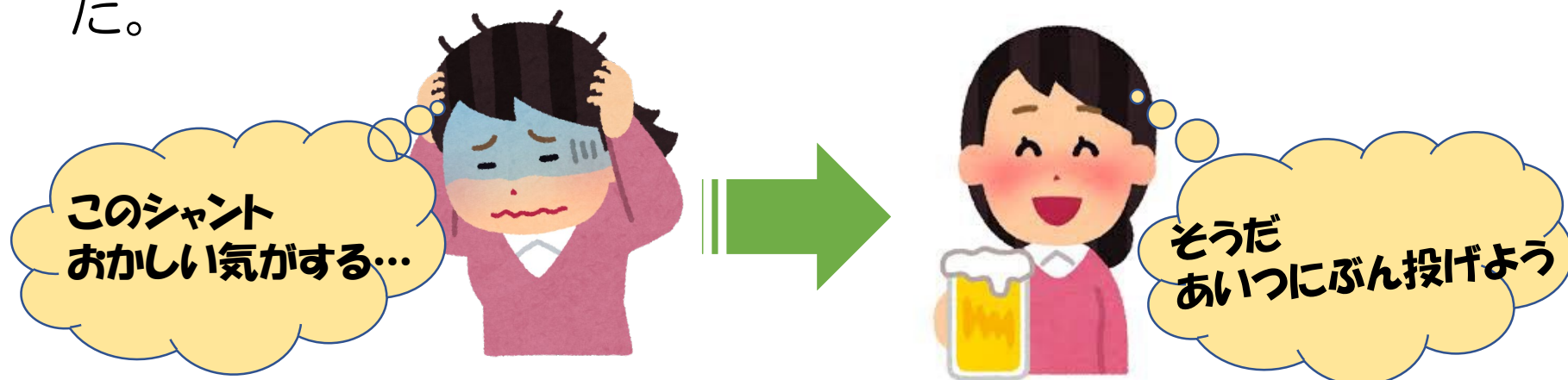
現場から得られるデータはす
べて記載し、診断や方針決定
の参考となるように

硬化弁狭窄部、CAS部の拡張を試みれば浮腫の原因となる血流の改善は望めるが、元
来高流量であり。現状でも1349ml/minであるため、上腕部の狭窄がある程度の「絞り」
となってくれていると思われる。
透析時のみ腫れ上がる原因は不明ではあるがCAS部の狭小化はいずれにしても懸念要
素となると思われる

結果と今後

2023年6月、フロー図の完成・運用開始し、各スタッフが同様な対応をとることができ、各部署間の連携も恙なく行われ、シャントの情報が一元管理されたことより患者様に、よりスムーズな医療の提供を行うことが可能となった。

また、洛和会京都腎臓病センターとの連携を強めることにより、当院透析関連スタッフの不安を払拭することができた。



結果と今後

有形効果：

→各部署にフロー掲示し、いつでも対応確認、スムーズに対応できるようになった

無形効果：

→シャントトラブル発生時の部所管の連絡の不和を解消することができた。

→シャント観察時やトラブル発見時の不安要素を解消することができた

→関連部署でのシャントの観察に対する意識の向上があった。

今後の課題として・・・

①現状2名のシャント管理スタッフ(透析経験10年↑程度)で運用・対応を行っている。

通常の業務と兼務担当しており、また、勤務帯が様々であるため、トラブルの現場に居合わせることができないことが多々ある。

対応できるスタッフを増やしていきたい。

病棟・透析スタッフ向けに勉強会等でシャントの観察やエコーの見方等の発展知識を徐々に身につけてもらう。

→若手向けに第一回勉強会開催 **済み**



結果と今後

②患者様が治療を拒否するケースや、逆に不安感からトラブル状態でないにも関わらず検査や治療を要求するケースなどの対応などのフロー図に記載のないケースについての対応など、フロー図を随時アップデートしていきたい。



おわり

ご清聴ありがとうございました。